

児童が運動の楽しさを実感できる体育学習について
～児童のつまずきを予測した「走り幅跳び」の実践を通して～

体育科の走り幅跳びの学習において、苦手意識がある子どものつまずきを想定し、そのつまずきを解消する支援を積み重ねることで、どの子どもにも体を動かすことの楽しさを実感させることを目指した。

1 実践の具体

① 走り幅跳び特有の楽しさを実感できる指導の工夫

跳躍に高さが出ると記録が伸びることに気付かせるため、理科の授業で使う「演示用空気鉄砲」を用い視覚的な支援をした。そして、そのことを実感させるために踏み切りに跳び箱を設置した。ロイター板に比べ跳び箱は跳躍に高さは出ないけれど、高さを出すのに高い技術を必要としないため、児童の実態に合わせて跳び箱を選択した。多くの児童が、跳んだ瞬間の「ふわっ」とした感じを感じ取ることができた。

② 学びの実感が伴う振り返りの工夫

学びの実感が伴う振り返りができるように、タブレットを活用して助走や跳躍の様子を撮影し、「動画によるポートフォリオ」にまとめた。自他の動きを客観的に振り返ることで、本時の変容に気付いたり、次時への課題につなげたりすることができた。体育授業の振り返りに対して有効な方法であると考えている。

2 実践の成果と今後の方向性

児童の振り返りから個々の成長の仕方を見取ることができた。本実践を通してどの児童も達成感を味わい、運動の楽しさを実感することができた。

今後の方向性として、児童の主体性が伸びる授業づくりの中で、教師はどのような立ち位置でどのように児童に関わっていくのが課題である。児童の「主体性」が求められる授業づくりにおいて、教師が「教えない授業」と言われることもあるが、私自身は、今回行った実践のように、児童のつまずきを予測した支援が必要ではないか、教え込みとは違った学びを支える「教え」や「しかけ」が重要ではないかと考える。

I 児童が自分自身の成長を実感できる振り返り活動について

～ 理科学習において、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」について振り返る方策 ～
視点を明確にした振り返りを継続することで、児童は自分の学びの現在位置や方法を把握することができる。さらに、次の目標を設定したり、達成に向けて見通しをもったりする力も育つと考える。

ここでは、現職教育主任として取り組んだ理科学習における「振り返り」の実践について紹介する。

1 実践の具体

① 視点を明確にした振り返り

小学校理科で育成を目指す資質・能力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に即した振り返りの観点を作成し、児童が目標を意識して振り返りができるようにした。

② ICTを活用して振り返りの内容を児童同士が交流する方法

振り返りを書いた後、友だちと交流することで児童はさらに振り返りを深めることができる。しかし、45分の授業時間内に振り返りについて交流する時間は十分とれない。そこで、ロイノートアプリを使って、短時間で交流する方法について開発した。

③ 校内研修を通して、めざす振り返りの姿の共有

児童が表現した振り返りにはどのような価値があるのかを、教員も児童も共有することがさらによりよい振り返りにつながる。そこで、児童の表現物を持ち寄り、価値付けをする研修を行った。

2 実践の成果と今後の方向性

令和4年7月に3～6年生を対象に実施した理科アンケートの結果によると、肯定的な回答の割合が増加した。また、評価を行う際の材料の1つとして児童の振り返りの記述を活用することができるようになった。

今後は、更に、児童同士による価値付けや称賛を通して、自身の成長を実感できる効果的な支援の在り方について研究したい。

設問	肯定的回答の割合 (%)	R2年9月比
見通しをもって理科の単元や授業を進めることができるか。	86.7	+16.5
授業を通して自身の成長に気付くことができるか。	80.7	+18.4